



岡田理子 「薔薇の洋館」 F6(水彩)

作者コメント

横浜ゴムの薔薇の洋館です。やはり建物は苦手です。色が少し濁りました。

喜田コメント

色彩の組み合わせがとてもきれいです。建物に横方向の鉛筆の線を入れたことにより、建物の硬さとか造形の強さが出ましたが、かえって岡田さんの良さを削いだように思います。あくまで水彩絵具と筆で表現してほしいと思います。

構図的には建物とそれを取り巻いて咲き乱れる薔薇が中心です。そのところは本当にうまく描けたと思います。咲き乱れる薔薇の花の美しさが良く伝わってきます。黄色の薔薇の効果も絶大です。画面左の大木は作品が左に流れるのを抑止してくれて有効です。

問題は手前の緑の丘と家の背後に立つ 2 本の木の表現です。もう少し形にこだわって、しっかりと描いてみたらどうでしょうか？



遠矢慶子 「葉山新名瀬漁港」 F6(パステル)

作者コメント

手前の柵から描きました名島、江ノ島、富士山と漁港らしくない風景になってしまいました。名島には、赤い鳥居と石原裕次郎灯台も入って、オンパレードです。

喜田コメント

背景に江の島と富士山が見える雄大な海の風景です。
まず最初に感じたのは海の描き方、空の描き方がうまいなあ、ということです。いろいろな色を使いながら帯状の濃淡で海や空を表現しているところがすごいと思います。パステルは色を置いた後、指で調子を整えると、作者の気持ちが指先を通して画面に映るのですね。すなわちパステルはこする指を通して作者の心が画面上に表現されるのだ、ということをお教してもらいました。富士山はあるようで無いようで、しっかり描かれています。
江の島をシルエットのように暗く描き、その手前に横たわる他の岬を抑制した緑で描いたのも上手いと思います。船の描き方もブイの位置も上手いと思います。
構図的な問題で私が感じたただ一つの問題は、すべての線が右下がりであるということです。大きな違和感はありませんが、手前の展望台の手摺の形状や方向で全体の構図の調子を整えてみては如何かと思います。



月川りき江 「あじさい」 27 cmx24 cm(色紙)(ちぎり絵)

作者コメント

淡い感じのあじさいを作りましたが、薄い色の新聞紙は印刷の字が透けて見えるので、この雰囲気には似合いません。だから和紙と新聞紙の合作です。

喜田コメント

花も、葉も、背景も、全体的な色調がとても美しく、落ち着いた上品な「あじさい」の雰囲気を出したと思います。最近のあじさいは濃い赤色とか強烈な紫色の下品なものが増えました。昔の薄いブルーの紫陽花はめったに見ることが出来ません。月川さんの作品で、久しぶりにあじさいの美しさを思い出しました。

構図的には画面の左下に作品の重心を置き、上部と右に空間を作ったのも良かったと思います。葉と花を程よく散らせて配置しましたね。これは作者のセンスの良さによるものです。

葉・花びらの色彩のグラデーションや濃淡をちぎり絵でどのようにして表現できるのかを作者に聴いてみたいと思います。写真撮影において、期せずして左下が暗くなったのも、こうやって見るとよかったのではありませんか？

新聞紙だけを使ってこのような清楚な美しさを出せればもっと素晴らしいのですが・・・。



武智康子
「シャクヤクの花」
F4(水彩)

作者コメント

ご近所から頂いた花は、ピンクの色が濃く花びらが丸いちょっと変わったシャクヤクでした。描きたいと思いました。でも描き始めると、なかなか花の感じがよく表現できませんでした。背景の色は、敢えて淡いピンクにしてみました。不満ですが提出いたします。

喜田コメント

シャクヤクの花を画面いっぱい描きましたね。描きたい対象物が極めて明確であり、「感動した対象を描く」という点では問題ないのですが、やはりバランス上、中心の花が少し大きい、と思います。7個あるシャクヤクの花の①大きさ、②方向、③色彩、は大きな違和感はありませんが、一つぐらい右向きがあっても良かったと思います。

シャクヤクの花弁の厚みや深い色彩が良く表現できたと思います。武智さんはモチーフを良く観察して正確に描く力がついてきました。この絵の成功ポイントは、画面全体がオレンジ・黄色・緑など暖色が支配する中で寒色の花瓶のブルーをととても効果的に配置したところです。

事実と少し違っても、作品としてどうか、ということにこだわるともっとよい絵になると思います。あえて背景を花と同系色のピンク・オレンジ系で表現したチャレンジに拍手を送ります。



黒田重雄
「誕生日花—作品 1」
F6(水彩)

作者コメント

8月は妻の誕生日で子供達からの花が届きます。記念に作品として残そうと思い、毎年作品に仕上げています。WEB展用に以前の作品の気になる箇所を修正して出品させていただきました。

喜田コメント

肉厚の透明ガラスの花瓶に挿した「秋の花々」をうまく描きましたね。とても難しいモチーフです。全体的に黒田さんの個性が良く出ていて文句ありません。構図的には花瓶に入った茎の部分が少し長すぎたと思います。もう2cmくらい花瓶を下げて花の部分を大きく描いた方がよかったのではありませんか？花瓶の中の水面とそこに刺された茎の表現も上手いと思いました。もっと感じを出すためには水面の上(空気)と下(水)の色と描き方を少し変えてやるとよいと思います。当然、水の部分をほんの少し濃くします。花の部分はとても上手です。バランスも全く問題はありません。



筒井隆二
「額紫陽花
（がくあじさい）」
F6(水彩)

作者コメント

今が盛りの額紫陽花です。その名の謂れは、額で縁取るような花姿から来ているそうです。元気のよい葉っぱが優勢で、花が負けそうです。

喜田コメント

とても好感の持てる「気持ちの良い作品」です。額紫陽花の繊細な花卉や作者がおっしゃるように支配的な葉を、精神を込めて描いた真面目さが伝わってきます。この絵は額紫陽花の几帳面で四角四面の生真面目さと、卓上の敷物の面白い遊びの様子が、異質ながら不思議にうまく融和して、第3の力が生まれた気がします。とても面白い作品です。今年になって筒井さんがチャレンジしている、「卓上のエッジの表現」ですが、今回も挑戦を見せてくれました。青色の机のシャープなエッジ、敷物の角の斜線、シンプルに抜けた背景の白黄色、どれもおしゃれです。それでいて「紫陽花」の花は決して主役の座を失っていません。



竹前義博 「初夏の雲」 F6(水彩)

作者コメント

ウォーキング途中の風景を絵にしました。梅雨入り前ですが、空は夏の雲です。近くの木々は緑が濃くなり、遠くの山の緑はまだです。田んぼは田植えが終わりました。雲を描くのは難しい。濃い碧の中に白い雲が浮いているだけが…。私は、最初に空を碧く塗り、次に雲の部分ティッシュペーパーで拭き取り、白を塗りました。

喜田コメント

竹前さんの須坂風景は何枚も見せていただきました。もう一流です。竹前さんの緑豊かな田園風景は素晴らしいです。特に空の表情は毎回、感心させられます。今回も紙面の60%を空に割り当てました。一般的に言えば、60%を空に割り当てると作品が弱くなります。しかし、竹前さんの作品は違います。60%の空が、あまりにも面白く、沢山のしゃべりをしてくれます。本当に豊かな表情なので空が大半を占めているにもかかわらず、全く違和感がありません。空が主役、田園風景が脇役といったところですが、脇役の木々や山の描き方も文句ありません。

この作品で修正したいと、衝動にかられたところは、下辺に描かれた畑と道の部分です。どこかに赤系の色彩が欲しい、どこかに生活感のある要素が欲しい、どこかに動きが欲しい、という気持ちになります。



若林哲史
「紫陽花とりどり」
F4(水彩)

作者コメント

野の紫陽花は同一種が群生してますが、想像で色々描き込んでみました。電車は失敗でした。

喜田コメント

思いきった挑戦が面白い作品を生みましたね。電車も失敗ではありません。江ノ電があることにより、観る者に色々想像させて、どんどん楽しい世界が広がります。絵画はそういう力を持っています。確かに電車をもう少し上手に描いたらもっと良かったですが(笑)。ちょっと線路もほしい。多様な紫陽花の花々の表現はまさに若林さんらしい写実です。ここに若林さんの力量が見られます。さて、作品を一つの物語で表現するということは絵画の大きな楽しみです。

若林さんの作品は、湘南に咲き乱れる「紫陽花の花畑」の中を江ノ電が疾走する、という物語です。この作品で私が修正したいところは、電車の背後の緑、山々、です。にじみや朦朧でなく背景もしっかり形を描いても、前面の「紫陽花いろいろ」が強く描かれているので負けません。



井上清彦 「善福寺近くの紫陽花」 F4(水彩&水性色鉛筆)

作者コメント

梅雨の花、紫陽花を取り上げました。景色のなかに描くのは難しく、静物画的に描きました。単調になったので、思い切ってメリハリを付けました。

喜田コメント

誰にも描けない井上さんの「紫陽花」ですね。風景の中に咲く紫陽花もいいけど、また、花瓶に差した紫陽花もいいけど、この作品のような紫陽花も面白いと思います。井上さんの紫陽花はまず色彩が明快です。複雑に絡み合う葉っぱの中にたくさんの「紫陽花の房」がありますがそれぞれの房は一つとして、同じ色彩や形の房はありません。井上さんは個性豊かに気持ちを込めて、一つ一つの房を表現してくれたと思います。「紫陽花の花はこう描くんだよ」と知ったかぶりをして描く、紫陽花の名手の「紫陽花」とは全く違った、それよりはるかに素晴らしい(と私が思う)井上さんの「紫陽花」がここに 있습니다。とても魅力的です。色彩豊かな花の房を支える葉っぱの群れも、とてもきれいです。写真のように実物そっくりに描く「写実」の観点からは上手くはありませんが・・・(笑)。写真のような「紫陽花」は10分も眺めていると飽きてしまいます。井上さんの「紫陽花」は1時間眺めていても飽きません。その理由は気持ちがこもり、十分個性が発揮されているからです。修正するところはありません。



喜田祐三 「パンデミックの五月」(芸術の森公園にて) F20 (油彩)

作者コメント

この1年半、コロナ禍の日々、私は健康維持のため近所の散歩を日課としています。
絵の好きな私は葉書サイズのスケッチブックを持って、散歩中にところどころ「我が住む街」シリーズのスケッチをしています。
帰宅して、アトリエでスケッチを見ながら油彩画を制作します。
この作品はパンデミック下でも例年と少しも変わらず美しい新緑を楽しませてくれる「府中芸術の森公園」でのワンカットです。
複雑な緑の表現に留意した作品です。



喜田祐三スケッチ(はがきサイズ:色鉛筆)